

8 平成 24 年度 事業のまとめ

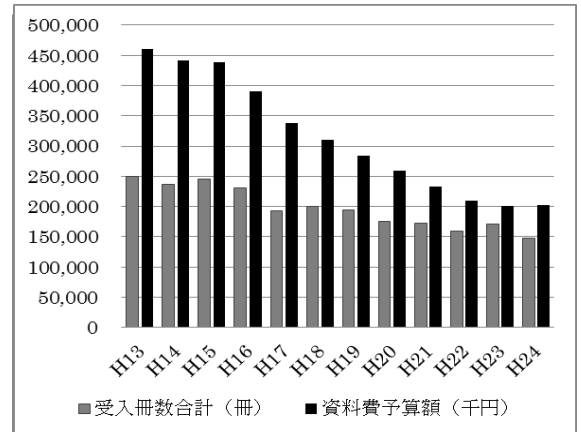
(1) 司書の専門性を発揮したサービスを進展させました

ア 蔵書再構成5か年計画の実施

(ア) 参考図書や需要の多い定番図書など市民の課題解決に役立つ資料を重点的に収集

平成 22 年度に策定した「蔵書再構成5か年計画」に基づき、市立図書館全体の蔵書の見直し・補強の取組を推進しました。

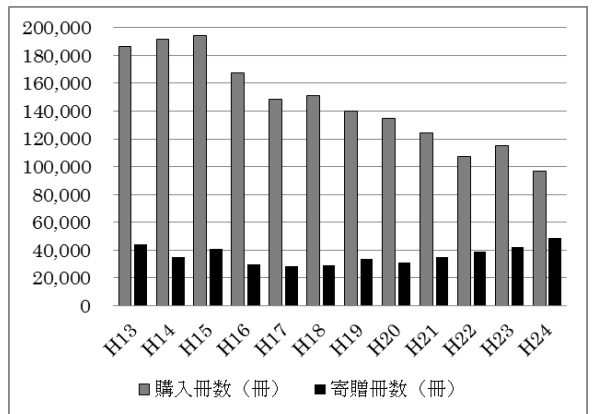
平成 24 年度は、図書館ごとの実績や目標に基づいて年間資料収集計画を作成し、計画に沿った収集を実施しました。また、「蔵書再構成5か年計画」の中間振り返りを実施し、事業の進捗よく状況を確認しました。



【受入冊数・資料費推移】(『横浜市の図書館』
『日本の図書館 統計と名簿』より)

(イ) 寄贈図書の受入れの強化

図書館では、財政状況が厳しい中、人気作家の小説や話題書、ロングセラーの児童書、郷土資料などを中心に図書の寄贈を募り、蔵書の充実に努めています。平成 22 年度から、横浜市職員に対しても図書寄贈の呼びかけを実施しており、平成 24 年度には 1,203 冊の寄贈がありました。また、平成 21 年度に発表した「ヨコハマの子どもが選んだ 150 冊」掲載図書を対象に、市民の皆さま及び企業・団体等の皆さまからの寄贈を募り、平成 24 年度もたくさんのご協力をいただきました。



【購入冊数・寄贈冊数推移】(『横浜市の図書館』より)

(ウ) 電子図書館「都市横浜の記憶」の充実

中央図書館では、貴重資料のデジタル化を継続的に進め、電子図書館「都市横浜の記憶」での公開を推進しています。平成 25 年1月からは、電子図書館システムがリニューアルされ、資料検索や画像の閲覧等の利便性が高まりました。また、国立国会図書館が提供する横断検索サービス国立国会図書館サーチ(平成 24 年1月正式稼働)との連携を継続して行い、より多くの方に「都市横浜の記憶」で公開している資料を閲覧する機会を提供しています。

イ 子どもの読書活動の支援

(ア) 横浜市立図書館児童サービス5か年計画

平成 23 年3月に策定された児童サービス5か年計画に基づき、家庭における読書活動と、家庭・地域・学校との連携を推進しました。保護者や保育者への支援として、絵本の選び方や読み聞かせの方法を伝える講座を実施しました。また、子どもと保護者がともに参加し、家庭における読書への興味を深めることができる企画事業を実施しました。

(イ) 学校教育及び学校図書館への支援

市立図書館では、学校連携事業として学校教育への協力と子どもに身近な学校図書館充実への支援を行っています。平成 24 年度は、市立図書館を十分に活用していただけるよう、全館で「学校向けプログラム」を作成して学校に配布したほか、横浜市教職員用サイト Y・Y NET「Teacher's Room」内の市立図書館のページを活用し、新たなセット貸出のお知らせや図書修理講座のテキストの改訂版を載せるなど学校連携事業に関する情報発信に努めました。

【パスファインダー「横浜探偵団」(平成 24 年度発行分)】

■ 児童向けパスファインダー

第 11 弾 自然を観察しよう
第 12 弾 お天気はかせになろう

(エ) 家庭・地域での子どもの読書の支援

家庭や地域における読書活動を支援するため、子どもを取り巻く大人の方に向けた読み聞かせ講座を計 82 回開催しました。ショッピングセンターで読み聞かせ講座を行ったほか、保育所、各区の子育て支援拠点・地域ケアプラザなどの市民利用施設へ司書講師を派遣することにより、市民に身近な場所での講座も開催しました。

【平成 24 年度読み聞かせ講座 対象別実施状況】[()内は平成 23 年度実績]

対象	回数(回)	参加人数(人)
読み聞かせボランティア	37(40)	792(1,104)
保護者・一般市民	38(26)	1,246(726)
幼稚園・保育園・子育て支援者 放課後児童クラブ指導者	6(9)	176(434)
日本語支援スタッフ	1(0)	29(0)

(オ) 読み聞かせ等ボランティアの養成・支援

地域や学校で実施する読み聞かせなどの活動を支援するため、ボランティアの方に向けた講習を実施しました。具体的には、絵本の読み聞かせや、図書修理などの講座を計 59 回実施しました。また、ボランティア活動に役立つ情報を集めたホームページ「ボランティア活動お役立ち情報」を新設しました。具体的には、ボランティア向けの講座で使用したテキストや、わらべうた・ブックトークの実演の動画を掲載しました。地域で読書に関する活動を行うボランティアグループ向けの図書の貸出も行いました。

【平成 24 年度ボランティア向け講座 実施状況】

[()内は平成 23 年度実績]

ボランティア向け講座内容	回数(回)	参加人数(人)
読み聞かせ	37(40)	792(1,104)
図書修理	19(15)	212(161)
わらべうた	1(14)	25(285)
図書室環境整備	2(2)	103(131)



市立図書館ホームページ
「ボランティア活動お役立ち情報」より

ウ 市民の学習活動・課題解決の支援

(ア) 市民の調査研究への支援

図書館では、カウンターや電話、Eメールで毎日多くの方から問合せや相談を受け、必要な図書や情報を探し出すお手伝いを行っています。

国立国会図書館「レファレンス※協同データベース」への事例提供

図書館に寄せられた多くの質問の中から、ほかの方が調べる際にも参考になりそうな事例を国立国会図書館「レファレンス協同データベース」(国立国会図書館が全国の公共図書館等と共同で構築しているデータベース)に提供しています。平成 24 年は事例提供数が 809 点、アクセス数が 207,071 件に及び、平成 23 年に引き続き、国立国会図書館から「御礼状」をいただきました。

※レファレンス……利用者の調べものや資料の相談などに対し、図書館資料の紹介や提供、情報入手の補助を行うこと。

「調査のミカタ」シリーズの発行

所蔵目録や特定のテーマについて資料を紹介するテーマリストなどを、「調査のミカタ」シリーズとして発行しています。併せて、図書館ホームページ上の「調査のミカタ」にも掲載し、課題解決のための情報提供に努めています。

【「調査のミカタ」シリーズ(平成 24 年度発行または改訂分)】

■テーマリスト

天文現象を調べる ～空を見よう横浜で～
生きる、つながる、支えあう ～「自殺」について考える～
判例を探す
病院を探す
病気を調べる

■所蔵目録

現行受入新聞(原紙)目録
横浜市中央図書館所蔵 教科書目録 小学校 (平成 24 年 11 月現在)
横浜市中央図書館所蔵 教科書目録 中学校 (平成 24 年 11 月現在)

ヨコハマ資料の展示と活用

中央図書館では、横浜に関する貴重なコレクションをご紹介する企画展を毎年開催しています。平成 24 年度は、月ごとに行うリレー展示に加え、外部機関と連携をはかり「近代水道創設 125 年～写真パネルでたどる横浜水道物語～」「濱の農ディスカバリー～食べることは知ること～」「横浜から世界遺産を!!～金沢区の称名寺・朝夷奈切通～」等の企画展で所蔵する貴重な資料の紹介を行いました。また、横浜市立図書館デジタルアーカイブ「都市横浜の記憶」で公開している錦絵が「第 2266 回関東・中部・東北自治宝くじ」の図柄として利用され、市内企業とのコラボレーション企画としてカレンダーにも掲載されたことで、貴重資料が多くの方の目に触れる機会を作ることができました。



「都市横浜の記憶」に収録されている錦絵を図柄とした「関東・中部・東北自治宝くじ」:1月30日から2月12日まで14日間 発売された

ビジネス支援事業

中央図書館では、4階「ビジネス資料コーナー」「法情報コーナー」を中心に、企業名鑑や白書、統計書、法律書など、ビジネスに役立つ資料を取り揃えています。さらに3階「PCリサーチコーナー」では、各種CD-ROMや企業情報、新聞記事など7種のオンラインデータベースが検索できる端末を設置しています。

平成 22 年度7月から、横浜市のビジネス街であるみなとみらい地区にビジネス書等を積載して移動図書館の運行を開始しました。平成 24 年度からは、2巡回毎に時事テーマを取り上げ「世界に誇る MADE IN JAPAN」「アメリカ大統領から学ぶ 伝える力!」などのテーマで資料を用意し、ビジネスパーソンへの支援を強化しました。

各種コーナーの設置・館内の書架整備

地域図書館では各種コーナーの設置を通じて、地域特性に応じた資料の収集・提供に努めています。求人や相談先、スキルアップに役立つ情報を提供する「おしごと応援コーナー」(南)、「地域情報コーナー」(金沢)を平成 24 年度に新設したほか、平成 20 年にはじめて瀬谷図書館に設置された「子育て情報コーナー」(地域の子育てに関する情報や資料等を提供)は、平成 24 年度には計8館(鶴見、南、保土ヶ谷、旭、港北、山内、泉、瀬谷)に増えています。

さらに、中央図書館では音楽映像ライブラリーの展示書架の入れ替えを行い、利用者の方が資料を探しやすい環境づくりに努めています。



「地域情報コーナー」(金沢図書館) 地域の最新情報を提供する

地域図書館におけるレファレンスサービス向上の取組

平成 23 年度に策定した「レファレンスサービス向上プログラム」に基づき、モデルとなる地域図書館の取組

を調査資料課が支援し、一連の活動を全館に還元することで、司書のスキルと全体的なサービス向上につなげることをめざしました。

【平成 24 年度 レファレンスサービスモデル館実施状況】

実施館名	実施内容
鶴見	自館ホームページ「鶴見を読む」の拡充。追加した資料の展示
港北	自館ホームページに「地域情報リンク集」、「港北区関連地図所蔵目録」の作成
緑	『暮らしのよろず相談どころ』展示を通じた課題解決支援の広報と利用促進
都筑	ホームページに『港北ニュータウン地域の暮らし』の情報を追加 郷土関連レファレンス事例のデータ整備
戸塚	地元企業・組織の社史・記念誌等資料の収集と展示



左:「鶴見を読む」追加資料展示
(鶴見図書館)
右:「暮らしのよろず相談どころ」
展示(緑図書館)

(イ) 行政への支援(庁内情報拠点化事業)

平成 24 年度も引き続き、庁内の日常業務や新たな事業の企画立案等のために必要な調査、資料紹介、図書の出借などを行いました。サービスの利用を促進するため、庁内で行われた研修などで事業の紹介、庁内ネットワーク上での情報提供などを行いました。

このうち、庁内ネットワーク上では、ビジネス誌の最新号の特集記事の紹介のほか、「めざせ☆調査の星」と題したコラムを定期的に更新し、「お役立ち！雑誌記事・論文を探すコツ」「官報で人物調査？」「仕事にヨコハマを取り入れる！」など、仕事に役立つ情報や調べ方のヒントを紹介しました。

【平成 24 年度庁内情報拠点化事業 利用実績】[()内は平成 23 年度実績]

業務用資料貸出		レファレンス受付		ブックリスト作成	
対象局区数	利用実績(冊)	対象局区数	利用実績(件)	対象局区数	利用実績(件)
43(40)	1,815(1,538)	42(38)	260(238)	5(3)	7(7)

【平成 24 年度ブックリスト作成実績】

タイトル	依頼元
水利権を知る	環境創造局農地保全課
ブックリストで紹介する Let's 省エネアクション ～できることから始めよう“脱温暖化”～	資源循環局
金沢区保健活動推進員のための ウォーキングと健康づくりははじめの一歩	金沢区福祉保健課
新採用職員向けブックリスト「市政知識・時事知識を身につける」	総務局人材開発課
新採用職員向けブックリスト「働きかた・ビジネスマナーを身につける」	総務局人材開発課
新任係長向けのブックリスト	総務局人材開発課
「環境未来都市横浜 OPEN YOKOHAMA」ひと・もの・ことが つながり、うごき、時代に先駆ける価値を生み出す「みなと」	温暖化対策統括本部 環境未来都市推進課

エ 地域情報の収集・提供の推進

(ア) 地域情報の収集・提供の推進

図書館ごとに、地域の関係機関との連携や企画事業の実施などを通して、地域資料の積極的な収集を推進しました。特に、地域館の地域情報提供については、レファレンスサービスモデル館実施事業の一環として、様々な地域情報を図書館から発信しました。

(イ) 地域情報発信のための基盤整備事業の実施

平成 23 年度に引き続き、「地域情報基盤整備事業」をモデル実施しました。この事業は地域情報の収集や、デジタル化を通じて地域情報を集積、発信できる仕組み作りを目指すものです。平成 24 年度は、地域図書館7館(南・港南・磯子・金沢・港北・緑・都筑)がモデル事業を計画・実施し、地域情報の収集・整理・ホームページで公開したほか、写真パネル展を開催しました。

【平成 24 年度 地域情報基盤整備事業実施状況】

実施館名	実施内容
南・港南・磯子・金沢	関連団体から提供された写真や自館所蔵貴重資料等をデジタル化し、横浜市立図書館デジタルアーカイブ「都市横浜の記憶」で公開しました(3月)。公開写真資料の一部については各館で巡回写真パネル展を開催しました(港南図書館(3月) ※南・磯子・金沢図書館は平成25年度に実施)。
港北・緑・都筑	3館合同で構築している横浜市北部地域写真アーカイブ「丘のヨコハマ写真館」公開写真を中心に3館で写真展を開催し、さらに市民から写真を収集しました(都筑図書館11月1日～11月8日、港北図書館11月15日～12月4日、緑図書館12月12日～12月28日)。これによって「丘のヨコハマ写真館」は、715点(平成24年度末時点)を公開しています。このうちの一部の写真については、横浜市立図書館デジタルアーカイブ「都市横浜の記憶」でも閲覧できるようにしました(3月)。

オ 地域と連携した読書推進活動の充実

(ア) 地域の市民団体との連携・協働

図書館では、地域で活動するボランティア団体等と連携して地域の読書活動を支援しています。地域のボランティアの抱える課題を共有し、課題解決に向けた話し合いの場として「ボランティア交流会」等を平成 24 年度は8回開催しました。

また地域の各種機関や団体等との連携を通じ、市民の身近な施設に向く「出張おはなし会」及び「出張講習会」を行いました。

【平成 24 年度 出張おはなし会 実施状況】

場所	回数	参加人数	備考
保育園・子育て支援拠点	27 回	1,140 人	
区役所乳児健診会場	628 回	14,355 人	ボランティアによる実施も含む。
その他	12 回	286 人	市民図書室、小学校放課後教室等

【平成 24 年度 出張講習会 実施状況】

内容	回数	参加人数	実施場所
読み聞かせ・わらべうた・ブックトーク	33 回	1,138 人	区役所、保育園、子育て支援拠点、ショッピングセンター等
図書修理	4 回	38 人	地区センター、幼稚園
図書室環境整備	1 回	56 人	区役所

(イ) 他機関(大学・研究機関・行政機関など)との連携・協働

ヨコハマライブラリーカフェ

中央図書館では、平成 22 年度から第一線の研究者と市民が気軽に語り合えるサイエンスカフェを継続的に実施してきましたが、平成 24 年度はその名称を「ヨコハマライブラリーカフェ」に変更しました(8月)。分野を自然科学以外の人文・社会科学にも拡大し、平成 24 年度は計 10 回実施しました。分野を広げたことで、(独)理化学研究所横浜研究所などの研究機関だけでなく、横浜国立大学、カリタス短期大学、横浜美術大学など市内大学、さらにはブリリア ショートショート シアター等とも連携し、新たな利用者層の拡大に効果をもたらしています。

庁内他部局との連携事業

平成 24 年度は、温暖化対策統括本部ヨコハマ・エコ・スクール(YES)との企画展示「Let's 省エネアクション」

ン〜できることから始めよう“脱温暖化”〜」、環境創造局との企画展示「濱の農ディスカバリー〜食べることは知ることに〜」、水道局による「近代水道創設 125 年プロジェクト」の企画展示及びヨコハマライブラリーカフェ、健康福祉局との共催による佐藤眞一氏（大阪大学大学院教授）の講演会を実施しました。その他の展示やイベントでも、他部局で作成した展示パネルや配布資料を利用する等、協力する体制を整えています。

ダンス・ダンス・ダンス

横浜市で開催するヨコハマ・アート・フェスティバル「Dance Dance Dance @YOKOHAMA 2012」に連携して、中央図書館では「ダンス・ノスタルジー ～横濱とダンスをめぐる物語～」と「絵画の中のダンス・ダンス・ダンス」の企画展示を同時開催しました（8月～9月）。所蔵する資料の紹介や文化観光局作成のパネルの展示を行い、イベントとの相乗効果を生み出すことができました。さらに、九都県市同時開催・共同企画資料展「自慢したい風景」の一つとして実施したことにより、広く図書館の利用促進を図ることができました。

森の中のプレイパーク事業

子どもの調べ学習支援として、環境創造局みどりアップ推進課と共催で、森の中のプレイパーク事業を5館（神奈川・中・緑・都筑・瀬谷）で実施しました。これは戸外での自然観察の後、図書館に帰って調べ学習を行うものです。また「横浜の自然を知ろう！調べよう！森の恵み塾写真展『ヨコハマ里山紀行』」と題して市内の自然を写した写真と調べ学習の方法を解説したパネル展示を8館（中央・鶴見・南・保土ヶ谷・旭・緑・栄・瀬谷）で行いました。

絵本の読み聞かせミニ講座

平成 24 年に横浜市は、イオンリテール株式会社と「包括連携協定」を結びました。これに基づき、中央図書館では、イオン天王町店と連携して、店内で「絵本の読み聞かせミニ講座」を毎月 1 回開催しました。絵本の選び方や読み方の解説のほか、わらべうたの紹介も行いました。

パネル展示

地域図書館でも、横浜市の各局区や地域の各種機関と連携して企画展示を実施しました。6館で横浜市史資料室の資料を用いたパネル展示を開催しました。展示テーマは「横浜・関東大震災の記憶」（港南・保土ヶ谷・戸塚）、「横浜の台所－横浜中央卸売市場の 80 年－」（神奈川）、「昭和初期の体操」（泉）等多岐に渡ります。また金沢図書館では金沢動物園、区役所等の各種機関との連携により、通年で 12 種類の企画展示を行いました。



展示「横浜市立大学 地方史コレクション『旅する地方史』」（金沢図書館）
横浜市立大学の市民講習会に関連する資料を展示しました



展示「あゝなつかしの昭和初期の体操」ポスター（泉図書館）
市史資料室提供の資料を展示しました

図書館総合展プレフォーラム

第 14 回図書館総合展（於：パシフィコ横浜、主催：図書館総合展運営委員会）の関連企画として、プレフォーラム「デジタルネットワーク社会における学校教育と図書館」を、中央図書館ホールで開催しました（11 月 19 日）。学校教育関係者、図書館関係者、一般市民等、全国から 127 人の参加がありました。

カ 多文化サービスの展開

国際都市横浜の形成と、多文化共生の地域づくり支援のために多文化サービスを推進しました。

具体的には、外国籍や外国につながりを持つ子どもたちが母語で楽しめるおはなし会（中央・鶴見・磯子・金沢・港北）や多文化理解をすすめるおはなし会（中央・中・南・戸塚・栄）のほか、外国につながりを持つ児童生徒向けのブックトーク（中央）やおはなし会（泉）、市民との協働で実施した世界の国々を紹介する展示、ブックトークなどを実施しました（中央・中・港南・金沢）。

キ 市民協働の推進

引き続き図書館における市民参加の仕組みづくりを進め、平成 24 年度には、全館でボランティアが活動しています。司書との協働によるおはなし会から、ボランティアのみによる実施への移行が進んだほか、土日祝

等のおはなし会の開催も増えています。本の修理では、糸綴じなどの製本技術を身につけていただくことにより、修理可能な資料が増えました。さらに、書架整理ボランティアを導入する館も増えてきています。これらの、図書館ボランティアの活動を支援するため、活動を通じての課題や要望について情報の共有を図るため、「図書館ボランティア交流会」を8回開催しました。また初級講座、中級講座等を開催し、ボランティアのスキルアップを継続的に支援しています。

さらに地域図書館 17 館で利用者会議等を計 54 回開催し、図書館の運営や企画事業などについて参加者からご意見をいただくことができました。

【平成 24 年度ボランティア活動実績】〔()内は平成 23 年度実績〕

活動内容		活動館数	活動延人数	延件数または延日数	備考
おはなし会	司書との協働	15 館(15 館)	493 人(一)	292 件(352 件)	おはなし会参加者総数 6,512 人(9,483 人)
	ボランティアのみ	15 館(13 館)	1,580 人(一)	701 件(355 件)	11,945 人(7,348 人)
図書修理		14 館(13 館)	3,827 人(3,611 人)	877 日(602 日)	総修理冊数 10,095 冊(13,038 冊)
書架整理		7 館(6 館)	2,530 人(2,079 人)	907 日(739 日)	
環境整備		2 館(2 館)	332 人(182 人)	198 日(150 日)	(内容)生け花の展示、 庭の手入れ
自主企画事業		17 館(6 館)	548 人(238 人)	86 件(58 件)	(内容)検索機講座、歴 史散策、各種講座等
その他		5 館(3 館)	91 人(75 人)	11 件(16 件)	(内容)タイ語翻訳、広報 活動等

【平成 24 年度利用者懇談会等実施状況】〔()は平成 23 年度実績〕※懇談会設置前の事前準備のための開催を含む

図書館名	懇談会名称(設置年月)	開催回数 (回)	図書館名	懇談会名称(設置年月)	開催回数 (回)
鶴見	鶴見図書館利用者・団体懇談会 (平成 23 年 2 月)	1 (1)	港北	「港北図書館友の会」と図書館 の連絡会(平成 22 年 6 月)等	13 (13)
神奈川	神奈川図書館懇談会 (平成 22 年 11 月)	1 (2)	緑	未設置※各種ボランティアの連 絡会等に随時参加	6 (5)
中	中図書館書架整理ボランティア 懇談会(平成 23 年 7 月)等	2 (1)	山内	利用者フォーラム (平成 22 年 7 月)	2 (2)
南	南図書館を囲む会 (平成 23 年 6 月)	3 (2)	都筑	都筑図書館から未来を描く協働の会 (平成 24 年 12 月)	8 (12)
港南	港南図書館懇談会 (平成 21 年 12 月)	1 (1)	戸塚	戸塚図書館利用者懇談会 (平成 22 年 3 月)等	4 (3)
保土ヶ谷	保土ヶ谷図書館懇談会 (平成 23 年 2 月)	1 (1)	栄	栄図書館懇談会 (平成 22 年 6 月)	1 (2)
旭	旭図書館応援し隊 (平成 23 年 5 月)	1 (1)	泉	いいとこづくり委員会 (平成 22 年 6 月)	3 (3)
磯子	磯子図書館利用者懇談会 (平成 22 年 10 月)	2 (2)	瀬谷	瀬谷図書館利用者懇談会 (平成 22 年 9 月)	2 (2)
金沢	金沢図書館懇談会 (平成 23 年 1 月)等	3 (3)	計		54 (56)

(2) 効率的で効果的な図書館の管理運営を推進します

ア 地域図書館の管理運営手法の総合的検討

これからの市立図書館には、市民自らが課題解決を図るために必要な資料の提供や、情報の提供・発信を通じた市民の読書活動推進の支援、また、区役所や学校を含む地域との連携の一層の強化など、「地域の情報拠点」として、司書の専門性を発揮した質の高い図書館サービスの提供が求められています。一方で、図書館経営については、厳しい財政状況を踏まえ、これまで以上の効率的な管理運営も不可欠です。

こうした課題に対して、平成 22 年度の山内図書館指定管理者制度導入や、平成 23 年度の都筑・戸塚両図書館の司書補助業務の委託化を進めてきましたが、今年度は、これらの館の「サービス向上と管理運営の効率化」について具体的な検証・評価を行い、今後の地域図書館のより良い管理運営のあり方、方向性の検討を進めていきます。

イ 自主財源の確保及び経費の節減(広告事業)

広告事業

平成 24 年度の図書館広告事業による歳入額は 4,875 千円、節減額は 3,224 千円でした。特徴的な取組としては、2社から図書貸出用手提げ袋の提供を受けたことが挙げられます。広告の一部に「あなたの調べもの お手伝いします」(イオンリテール株式会社)、「読みたい本を見つけたら 横浜市立図書館」(株式会社ブックス)とメッセージを印刷し、図書館資料の保護だけでなく、図書館の機能をPRできるよう工夫しました。

また、平成 24 年1月から中央図書館で試行的に実施してきた雑誌広告事業について、平成 24 年度は中央図書館での試行実施に加え、対象を全館に広げ、広告主の公募も行いました。その結果2社からお申し出をいただき、7誌に広告を掲載することができました。この事業による歳入は雑誌の館内用カバーの購入に充てさせていただきました。

市立図書館では、引き続き広告事業等により、自主財源の確保に努めるとともに、管理運営経費の節減に積極的に取り組みます。

企業協働でヨコハマライブラリーカフェでの紅茶提供

市内企業から自社製品を活かした社会貢献について「共創フロント」※への提案を受け、中央図書館の企画事業「ヨコハマライブラリーカフェ」に、横浜入港のフェアトレード紅茶を提供していただきました。最先端の知的情報共有の場であるヨコハマライブラリーカフェのリラックスした雰囲気づくりに役立っています。

※共創フロント……行政と民間が互いに対話を進め、新たな事業機会の創出と社会的課題の解決に取り組むために、横浜市が設置した相談・提案受付窓口。



広告事業で作成した「図書貸出用手提げ袋」(株式会社ブックス)

ウ 身近で便利な図書館サービスの充実について

区役所との連携事業として、平成 17 年 12 月に開始した図書の貸出・返却取次サービスを引き続き実施しています。平成 23 年 4 月からは、二俣川駅・東戸塚駅の行政サービスコーナー内の図書取次コーナーが横浜市の図書館情報システムとオンラインでつながり、登録更新も行っています。

【平成 24 年度利用実績】

区	場 所	実施内容	延利用数		
			利用者(人)	貸出(冊)	返却(冊)
旭	二俣川駅(相鉄線) 行政サービスコーナー	貸出・返却	38,916	66,975	97,220
戸塚	東戸塚駅(JR線) 行政サービスコーナー	貸出・返却	76,339	133,149	188,152
青葉	美しが丘西地区センター	貸出・返却	8,422	15,120	14,255
	大場みすずが丘地区センター	貸出・返却	4,521	8,452	7,958
	奈良地区センター	貸出・返却	9,131	16,597	17,787
	藤が丘地区センター	貸出・返却	11,485	21,178	15,807
	若草台地区センター	貸出・返却	8,838	16,520	13,583
	田奈ステーション (区民交流センター内)	貸出・返却	7,628	13,684	11,379
	青葉台コミュニティハウス	貸出・返却	10,711	19,306	12,777
	市が尾駅(東急線) 青葉台駅(東急線) たまプラーザ駅(東急線)	返却ポスト			175,901
図書取次サービス事業総計			175,991	310,981	554,819

エ 利用者アンケートの実施

今後の図書館サービスの参考とし、図書館運営に活用するために、来館者を対象に、来館目的とその達成度、図書館サービスの認知度と満足度、調べもの相談をしたことのない理由、図書館で得たい情報、充実を期待する図書館サービスなどについて、アンケート調査を行いました。12月に全図書館で実施し、5,877人の方から回答をいただきました。

来館目的とその達成度では、「調査・仕事・勉強」目的の利用者の83.8%と高い達成度となっています。サービスの認知度では、「本や雑誌の貸出予約ができること」(85.6%)、「館内利用者用検索機で本・雑誌の貸出予約ができること」(74.1%)などの項目で7割を超えており、満足度では、おおむね8割以上の利用者から「満足・やや満足」と高い評価を受けています。また、相談をしたことのない理由では、「自分で解決できた」の割合が高い一方、2割の利用者が「相談できることを知らなかった」、「何を相談して良いのか分からない」と回答しています。得たい情報では、「健康・医療」「教養・娯楽」が5割を超えており、今後充実を希望するサービスとしては、利用者の6割以上が「本や雑誌・新聞の充実」を望む結果となりました。

オ 交通拠点での図書館サービス機能強化事業

「横浜市教育振興基本計画」に基づく「市民に身近で便利な図書館サービスの一層の充実についての検討」については、現在、二俣川駅・東戸塚駅の2つの行政サービスコーナーで図書取次サービス(予約図書の貸出・返却)を実施していますが、今後は、それに加えこれからの図書館サービスとして、情報案内・提供機能を併せ持つサービス拠点を考えています。

平成23年度に基礎調査、平成24年度には基本計画調査を実施し、通勤や通学など市民生活上の動線となる交通拠点を中心として、市民に身近な情報拠点となる図書館サービス機能について調査・検討を行いました。今後も効果的・効率的な図書館サービス機能について、引き続き調査・検討を進めていきます。

(3) 市民にとって利用しやすい快適な図書館づくりを進めます

ア 利用者の要望の把握(広聴事業)

平成24年度に「市民からの提案」などに寄せられた図書館に関する意見・提案は326件でした。主な内容は、件数の多い順に、図書館の運営に関すること(87件)、図書の予約に関すること(76件)、図書館の施設管理に関すること(50件)、蔵書などの資料に関すること(34件)、貸出・返却に関すること(26件)となっています。

【平成24年度 図書館への意見・提案】

項目	内容	件数	主な意見・要望等
図書館の施設管理に関すること	施設管理	50	駐車場の利便性向上、快適な空調
図書館の運営に関すること	図書館建設・充実	12	図書館の新設整備
	行政サービスコーナー等連携	16	地区センターでの貸出・返却の充実
	開館日・開館時間	11	開館日・開館時間の拡大
	その他	48	ホームページの改善
図書館サービスに関すること	図書の予約	76	図書の予約システムの改善
	貸出・返却	26	延滞者への督促
蔵書に関すること	蔵書充実・資料収集	10	外国語資料の充実
	資料管理・書架管理	3	汚破損図書の確認・修理
	その他	21	寄贈図書の受入、視聴覚資料の提供
職員に関すること	市民応対	24	窓口や電話での応対の改善
その他		29	マナーが悪い利用者への対応の改善
合 計		326	

イ 広報活動

図書館から市民への情報発信は、ホームページとメールマガジンを主体として積極的に行い、ホームページアクセス件数・メールマガジン登録者数ともに増加しました。また広報媒体を使用しての情報発信は、地域にお住まいの方に重点的に広報を行うため、ミニコミ紙・ケーブルテレビ・地域FMラジオ等への情報提供に力を入れました。一方、図書館全体での取組については広く市民に周知するため、記者発表や横浜市ツイッター、地域情報ウェブサイト等で情報提供しました。記者発表件数は39件（平成23年度52件）、新聞等のメディアで報道された件数は810件（企画運営課確認分・平成23年度359件）でした。

【図書館ホームページ アクセス件数】（件）

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
図書館ホームページ ※蔵書検索ページアクセス数を除く	6,387,885	8,152,936	8,070,147	7,493,393	7,795,877
図書館蔵書検索ページ （検索回数）	7,865,861	8,800,644	9,622,859	10,377,671	19,732,518

【メールマガジン登録アドレス数】

平成23年度	平成24年度
513件	731件

ウ 企画事業の実施

（詳細は、「5 平成24年度利用統計(10)企画事業、その他の事業」(P.22～P.28参照)）

(ア) 企画事業

企画事業では、前年度に続き、地域の各種機関や団体との連携と、市民ボランティア等市民との協働による実施を推進しました。このことにより、多様なテーマの事業が実施できるようになったほか、おはなし会等の子ども向け事業を、土・日・祝日等、市民が家族で参加しやすい日程や時間帯に継続的に実施できるようになりました。

(イ) 統一キャンペーン

平成24年度も、全館で同時期に統一のテーマに沿って事業を実施する「統一キャンペーン」を、春・夏・秋の計3回実施しました。統一のイベントちらし・ポスターを作成したほか、記者発表を行い、幅広いメディアへの広報活動に努めました。また、毎年変更していたキャッチコピー・ロゴを、前年度と同じものとし定着を図りました。

【平成24年度 統一キャンペーン一覧】[※キャッチコピー・ロゴ・対象は平成23年度と同じものを使用]

	春(こども読書週間)	夏(夏休み)		秋(読書週間)
実施期間	4/1～5/13	7/20～8/31		10/1～11/18
キャッチコピー	新しいこと、本と いっしょに。	いっしょによむと、 もっとたのしい。	答えはいつも本の中	やっぱり読書の秋
ロゴ				
対象	・児童 ・乳幼児と保護者	・乳幼児と保護者	・小・中学生	・一般 ・児童 ・乳幼児と保護者

(ウ) 周年記念事業

山内(開館35周年)、保土ヶ谷(同30周年)、神奈川(同25周年)、南(同20周年)で周年記念事業を実施しました。山内図書館では青葉区と山内図書館の変遷を振り返る「1977年への旅～開館時の山内図書館と青葉区の歩み」展(7/18～9/17、12/1～3/31)、講演会「中村メイコ講演会『私の生き方』～楽しい老いを迎えるために～」(9月)等を開催しました。保土ヶ谷図書館では、地域のガイドボランティアや紙芝居グルー

プを招いた歴史講座や歴史散歩、郷土の紙芝居の上演等(いずれも5月)を行いました。神奈川県図書館でも、近世の神奈川県周辺に関連する歴史講演会を開催(10月)したほか、「あなたの暮らしを守ります!～図書館は大きな知恵袋～」として、年間を通して月替わりで身近で役立つテーマを取り上げ資料の展示を行いました。南図書館では、身近な図書館を目指し、「製本講座」の開催(12月)や、マスコットキャラクターの決定(12月)等を行いました。マスコットキャラクターは地域の高校と連携し、高校生に複数のキャラクターを作成してもらったうえで、利用者からの投票を通じて決定したものです。



左:「1977年への旅」展示(山内図書館)
 中:歴史散歩(保土ヶ谷図書館)
 右:南図書館マスコットキャラクター「ぐみよにゃん&ぐみよい」(南図書館)

(エ) 複数館合同事業

作業を分担することにより効率的に事業を実施するとともに、事業効果を拡大することを目指して、隣接する館や鉄道沿線など、つながりのある図書館間で合同事業を開催しました。平成24年度は、ボランティアに向けた講座が、異なる手法で2件開催されたのが特徴的でした。

鉄道沿線につながり、横浜市の西部に位置する保土ヶ谷・旭・泉・瀬谷図書館の4館では、学校で活動する読み聞かせボランティアに向けて「まずはここから!絵本の読み聞かせコツのコツ」講座を開催しました(9月～12月)。この講座では配布資料と講座の内容を共有し、同じ講座をそれぞれの区で開催しました。一方、横浜市北部地域の港北・緑・山内・都筑図書館では、「読書ボランティアステップアップ講座」を開催しました(11月～12月)。この講座ではそれぞれの館が「絵本の読み聞かせ」(都筑)、「ブックトーク」(港北)、「ストーリーテリング」(緑)、「製本」(山内)と、異なるテーマで講座を開催し、連続または選択的に受講できるように工夫したものです。



(4) その他のトピックス ～図書館情報システムの更新～

横浜市立図書館では、24時間365日稼働している図書館情報システムを、安全かつ安定して稼働させるために、定期的に図書館情報システムの更新を行っています。

平成25年1月に、図書館情報システムの更新を行い、インターネットからの利用者仮登録申請や予約かご等のサービスを開始しました。今後も、市民のニーズを踏まえ、図書館サービスの向上に努めます。

【システム移行に伴う新たなサービスの例】

利用者仮登録申請	図書館窓口でしか受付を行っていなかった図書館カード新規発行のための登録手続のうち、住所・氏名・生年月日等の登録内容の申請について、インターネットを利用して『仮登録』できる機能です。
予約順番指定	予約している資料の中で、シリーズものや上下巻などの受け取る順番を指定することができます。
予約かご	これまでは自分で管理していた「次に予約したい本」を、「予約かご」に入れることで最大100冊の「仮置き」ができます。
セキュリティキー	セキュリティ機能を更に向上させるため、『セキュリティキー』を任意に設定できる機能を追加しました。セキュリティキーは、図書館窓口で希望する方のみが登録できます。
ポータルサイト	横浜市地域情報ポータルサイトでは、図書館の蔵書検索だけではなく、図書館以外の施設の所蔵情報が横断的に検索できます。

「蔵書検索システムトップ画面」(平成25年6月現在)システム移行によりレイアウトが変更になりました。インターネットからの「利用者仮登録申請」や「予約かご」等の新たなサービスもはじまりました

(5) 関連記事

『神奈川新聞』

2012(平成 24)年 10 月 27 日(土)1 面

(著作権保護のため、新聞記事のホームページへの掲載は行っていません)

子どもたちが異文化体験
図書館でおはなし会



磯子図書館(本多俊雄館長)で3月31日、「いろんなことばでおはなし会」が行われた。

講師を務めたのは、横浜在住の中国とミャンマーの人。それぞれ母国語で、自国の絵本などを朗読した。

また、民族衣装の着付けや、ミャンマーで使われている「タナカ」という日焼け止めを実際に自分の腕に塗る体験会などもあり、子どもたちは楽しそうに異国文化を体感していた。

日焼け止めを腕に塗る子どもたち

『タウンニュース(磯子区版)』

2012(平成 24)年

4月 12 日(木)号

『神奈川新聞』

2013(平成 25)年3月 18 日(月)14 面

(著作権保護のため、新聞記事のホームページへの掲載は行っていません)

『タウンニュース(青葉区版)』
2012(平成24年)
4月12日(木)号

山内図書館が35周年

年間通じて記念イベント続々

あざみ野「山内図書館」が4月12日で、開館35周年を迎えた。1977年4月に開館し、市立図書館では、中央、磯子に次いで3番目に古い歴史をもつ。同館を運営する有隣堂グループは、年間を通じて様々な記念イベントを開催していくという。

開館したのは、あざみ野駅が開通する1カ月前。たまたまフリーザの「いすみ文庫」の呼びかけで、「美しが丘に公共図書館を作る会」が結成。9千人以上の署名を集めて市へ陳情し、開館に至った。「山内の地名を残したい」という住民の希望を受けた。

「やまちゃん」の秘密

今や利用者にはお馴染みとなった同館マスコットキャラクター「やまちゃん」は2007年「利用の多い子どもたちに親しんでもらおう」と



「2代目やまちゃんバネルも完成しました」
浜田館長(左)と小泉さん(右)

は、山内図書館と命名。開館後は利用者でこた返し、書架が空っぽになる日も、全国でも1・2を争うほどの人気ぶりだった。

市内初の民間委託

10年に市内初となる指定管理者制度が導入され、現在には有隣堂グループが運営。やまちゃん、は2代目を招いたイベントやiPad導入、平日の夜間開館など、民間ならではの取り組みを行う。浜田和広館長は、「皆様に支えられて35周年を迎えられた。子どもから高齢者まで楽しめるイベントを通じて、図書館の魅力を伝えていきたい」と話す。

古明地和郎館長が、イ

国際高生がキャラ考案

南図書館

20周年企画で投票受付中

キャラクターをデザインした横浜国際高校の小谷さん(左)と田畑さん



南図書館(渋谷和生館長)が今年、開館20周年を迎えるにあたり、同館のマスコットキャラクターを決める。キャラクターは六ツ川の県立横浜国際高校(里見正憲校長)の1年生2人が考案。現在、作成した4つの候補の投票を受け付けている。

1992年に開館した南図書館。20周年を記念してキャラクターを決めることになった。

すでに市内では中、金沢、鶴見、都筑などの各図書館にキャラクターがいる。図書館側は、キャラクターの作成を同館のそばにある京急・弘明寺駅が最寄り駅の国際高校に依頼。同校には美術部がないため、絵や音楽などの文化活動を行う「ユンタ

『タウンニュース(南区版)』
2012(平成24年)
11月8日(木)号

『タウンニュース(旭区版)』
2012(平成24年)11月29日(木)号

旭図書館

屋上緑化市民が一役

グリーンボランティア

コスモスやススキ、フレンドリーな「旭図書館」による「グリーンボランティア」のメンバーだ。植物の手入れを行う。どんな植物を植えるかもメンバーが話し合っていて決めているという。メンバーの鈴木元美さん(白根)は「もともと土いじりが好きで、もっと規模を大きくできたら」と話す。来月はパンジーやヒヤシンスを植える予定だ。



花の手入れをするメンバー11月19日

旭図書館では昨年の開館25周年を機に「環境にやさしい図書館づくり」を進めてきた。その一環として、屋上緑化が上った。屋上緑化は約5cmの土壌の上に芝生が植えられる。大地から切り離されているため、植物を育てるためには細かな

「アイメント部」に白羽の矢が立った。部内でイラストを描いている小谷愛さん(1年)と田畑美波さん(同)の2人が名乗りを上げた。夏休み前から同部と打ち合わせを行い、弘明寺周辺の歴史などを踏まえ、イメージを膨らませながら、キャラクターを考案。すべて2人がパソコンで仕上げた。

候補になったのは「ぐみようしぞうさん」「ぐみよじい&ぐみよばん」「ぐみよん&ぐみよらん」「ねもとぶい」の4つ。

「ねもとぶい」は江戸時代

代の儒学者で弘明寺村出身の根本武夷がモデル。論語の注釈書を出したなどの功績がある。

田畑さんは「どのキャラクターも愛着があり、この中から一つか選ばれないのは惜しい」という。外部からの依頼でキャラクターを作った経験が初めてだけに、小谷さんは「投票の際、用紙にキャラクターの感想も書いていただければ嬉しい」と呼びかける。

同館では「どのキャラクターも親しみやすい」と話す。投票は館内で11月18日まで実施。結果は12月2日の20周年記念イベントで発表される。

手入れが必要になってくるという。そこで、集まったのがグリーンボランティアだ。メンバーの協力もあり、今年7月に効果を測定したところ、コンクリート表面は約53度だったのに対し、芝生部分は30度。空調の節約にもつながったという。

また屋上緑化には、利用者のリフレッシュの場にしほしいという思いも、今まではコンクリートの殺風景な景色だったが、雰囲気はがらりと変わり、利用者にも「やさしさ」を提供しているようだ。

「屋上を見た人が写真を撮ったりしてくれているのを見るとうれしい」とメンバーは口揃えで語る。館長は「皆さんは本当に感謝の一言。植物なので始まらなから、今後新たな輪をつくってほしい」と話した。